

海の帝国琉球

—八重山・宮古・奄美からみた中世—

国立歴史民俗博物館 企画展示室A

3月16日(火) - 5月9日(日)



400点を超える資料から、新たな歴史像を示します。



オルテリウス アジア図
1575年
国立歴史民俗博物館蔵

●オランダの地理学者であるオルテリウスが制作した世界地図で、広く流布した。中央やや右上に描かれた日本の南西に伸びる島々には「Lequio maior」（大琉球）、「Lequio minor」（小琉球）と記され、琉球と台湾とわかる。その間の島々は八重山・宮古と思われるが、「Ternosa」（台湾）とも書かれており、情報の錯綜が窺える。

みどころ

○沖縄本島や離島で見つかった青磁や白磁がずらり
○琉球と諸外国との関係を示す絵画資料

○8点の国宝の文書を表示
（漢字とひらがなが混じった独特の文書も！）

展示の構成

- I 描かれた琉球
- II 八重山・宮古の時代・八重山の集落／宮古の集落
- III 境界領域としての奄美・奄美の集落／北からみた奄美
- IV 琉球統一と中央集権・沖縄本島の集落とグスク／琉球王権と明の冊封
- V 那覇港と島々を結ぶ・首里王府と那覇港／唐船口／宮古口／倭口
- VI 中国と日本のはざまでの日本の支配と琉球／東アジア世界の近世琉球



青磁陽刻牡丹文大花瓶
15世紀 国立歴史民俗博物館蔵

●15世紀に中国の龍泉窯で焼かれた大型の花瓶。一般的に流通している碗や皿と違い、権力者しか入手できない優品である。首里城からはこうした美術陶磁器の破片が大量に出土しており、他の地域とは隔絶した権力を有していたことがわかる。

会期 3月16日(火)～5月9日(日) ※展示替えあり

前期／3月16日(火)～4月11日(日) 後期／4月13日(火)～5月9日(日)

休館日 毎週月曜日 ※5月3日(祝)は開館し、5月6日(木)休館

時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)

会場 国立歴史民俗博物館 企画展示室A (佐倉市城内町117)

入館料 一般600円、大学生250円、高校生以下は無料。障がい者手帳所持者は手帳提示により、介助者とともに入館料無料。

※博物館の半券の提示で、当日に限りくらしの植物苑に入場できます。

※中止となる場合があります。最新の情報は歴史博ホームページをご確認ください。

〈問合せ〉

☎050(5541)860
0(ハローダイヤル)

<https://www.rekihaku.ac.jp>



西表島古見(こみ)遺跡採集陶磁器
13～16世紀 個人蔵

コロンブスやマゼランが開いた世界史上の大航海時代より以前、早くも14世紀代から東アジア海域世界では活発な交易がおこなわれていました。その中心となったのが海洋国家・琉球です。琉球王国の輝ける時代は、これまでもしばしば紹介されてきました。ただ、琉球はその活動の過程で、言語も習俗も異なる周辺の島々、八重山・宮古・奄美に侵攻し、それぞれの社会を大きく変化させたこと、このことで現在の日本の国境が定まっていることは、あまり知られていません。

文献資料がほとんど残っていないこれらの地域の歴史は、琉球王国によって作られた歴史書をもとに語られてきました。しかし島々を歩くと、ジャングルの中には当時の村が遺跡として眠っており、そこからは大量の陶磁器が発見されます。琉球王国とは別の世界が、そこには確かにあったのです。

これまでほとんど注目されてこなかった琉球の帝國的側面に視点を据え、八重山・宮古や奄美といった周辺地域から琉球を捉え直します。たくさんの青磁や白磁、国宝の文書や重要文化財の梵鐘、屏風や絵図など



首里那覇港図屏風(部分) 19世紀
沖縄県立博物館美術館蔵